

神鋼アクテック株式会社

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年4月1日～ 2024 年3月31日)



脱臭素材の専門会社

高性能フィルターや脱臭装置の製造販売を通じて、
さまざまな快適環境の実現に貢献しています。

脱臭 オゾン分解 油煙除去
付加価値の高い機能材

新たな快適環境をめざして

ニオイでお困りではありませんか？神鋼アクテックでは、脱臭・オゾン分解・油煙除去などの
高機能フィルターや脱臭装置の製造販売を通じて、家庭やオフィスから工場に至るまで
さまざまな快適環境の実現に貢献しています。

Create The Future



認証番号0003635

発行日： 2024年4月18日

□目次

項 目	ページ
表紙	1
目次	2
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
認証・登録の対象組織・活動	4
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績(日高工場)	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8～14
主な環境負荷の実績(大阪本社、東京営業所)	15
環境経営目標及びその実績(大阪本社、東京営業所)	15
環境経営計画の取組結果とその評価(大阪本社、東京営業所)	15
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	16
外部からの環境上の苦情・要望等	16
緊急事態対応訓練	16
代表者による全体の評価と見直し・指示	17
これまでの環境活動の紹介	18
編集後記	18

□ごあいさつ

神鋼アクテック株式会社は、環境改善のための各種フィルター製品と、その応用機器を製造販売しています。家庭、オフィス空間から、工場排気に至るまで、快適環境作りのお役に立つことを目標としています。2008年9月から本格的な環境活動を開始し、2009年5月に生産工場がエコアクション21の認証を取得しました。また、2013年1月からは大阪本社・東京営業所を含めた活動を展開しています。環境測定データ及び取組状況を定期的に確認し、更なる環境負荷低減が可能な負荷を抽出しています。全社従業員ひとりひとりが目標を持って行動することを宣言し、改善活動に取り組んでいます。

神鋼アクテック(株) 日高工場・大阪本社・東京営業所

環 境 方 針

(基本理念)

日高工場は、日本海に注ぐ円山川や緑豊かな神鍋高原に囲まれており、特別天然記念物のコウノトリの野生復帰を進めている、多様な自然環境に恵まれた地にあります。

当社は各種製品の製造・販売に当たり、豊かな自然環境を守り地球環境を保全することが人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて社内外の環境改善に積極的に取り組みます。

(基本方針)

1. 環境に関する法規制・条例、自主基準、利害関係者との協定等を遵守し、地域をはじめとする地球環境保護への配慮と環境汚染の防止に努めます。
2. 事業活動・製品が環境に与える影響を的確に把握し、技術的かつ経済的に実行可能な環境目標の設定と定期的見直しを行い、環境改善活動を継続的に推進してその達成を目指します。
3. 各サイトの業務プロセスにおいて生産・サービスのライフサイクルの観点で、
 - 資源の持続的な利用
 - カーボンニュートラル社会への貢献
 - 原材料・資機材等の使用・廃棄・排出における環境負荷低減等に取り組めます。
4. 全従業員への本方針の周知、各種教育を通じて環境管理活動のPDCAを促し、利害関係者へも本方針をオープンにする。

制定日:2008年8月1日

改訂日:2024年4月1日

神鋼アクテック株式会社 日高工場

工場長 林 弥史

□組織の概要

更新日：2024年4月18日

- (1) 名称及び代表者名
神鋼アクテック株式会社
日高工場長 林 弥史
- (2) 所在地
日高工場 兵庫県豊岡市日高町岩中682番地
宵田倉庫 兵庫県豊岡市日高町岩中宇中坪138-1 (組織上は日高工場に所属)
大阪本社 大阪府大阪市西区靱本町1丁目11番7号信濃橋三井ビルディング11階
東京営業所 東京都台東区上野5丁目15番14号ONEST上野御徒町ビル2階
技術開発部 神奈川県藤沢市宮前100-1(株神戸製鋼所藤沢事業所内)
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 日高工場総務課長 吉岡 誠 TEL:0796-42-1212
担当者 日高工場製造課設備Gr長 池田 智史 TEL:0796-42-1212

- (4) 事業内容
高機能材脱臭フィルター及び溶接用裏当て材の製造・仕入販売

- (5) 事業の規模

売上高 1,351 百万円

	日高工場	大阪本社	東京営業所	技術開発部	合計
従業員 名	47 名	8 名	4 名	9 名	68名
延べ床面積 m ²	16474 m ²	87.6 m ²	117.1 m ²	90 m ²	16,769m ²

- (6) 事業年度 4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 神鋼アクテック株式会社
対象事業所： 日高工場

大阪本社
東京営業所
対象外： 技術開発部 (株神戸製鋼所藤沢事業所内で環境活動に取組中)
活動： 高機能材脱臭フィルター及び溶接用裏当て材の製造・仕入販売



□事業や製品(商品)の紹介

神鋼アクテック株式会社は、「におい」と環境を科学する脱臭素材の専門会社です。

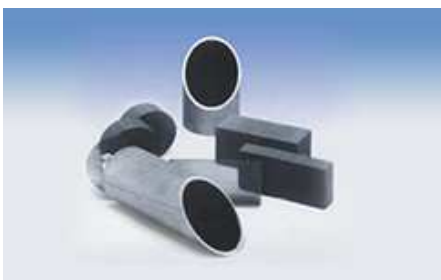
高機能材ハニカム

吸着剤による吸脱着作用や触媒分解作用により成分を吸着、分解することが出来ます。



品名: 厨房排気用脱臭ハニカム KDH

飲食店の厨房や食品加工工場から発生する調理排気臭の脱臭に最適です。



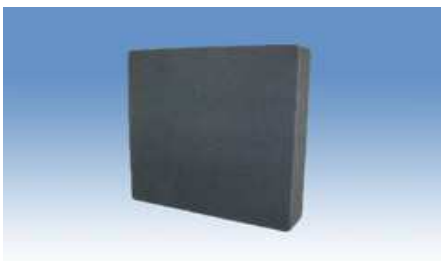
品名: 各種触媒ハニカム AKH

ご要望に応じて最適なフィルタをご提案致します。



品名: 厨房排気用脱臭フィルタ KCU

中小規模飲食店舗などから発生する調理排気臭の脱臭に最適です。



品名: 活性炭ハニカム ACH

脱臭、微量ガスの除去、空気清浄、触媒担体など様々な用途に応じます。

片面溶接用裏当て材

片面溶接を行なう際に使用し、良好で健全な裏ビードが得られます。



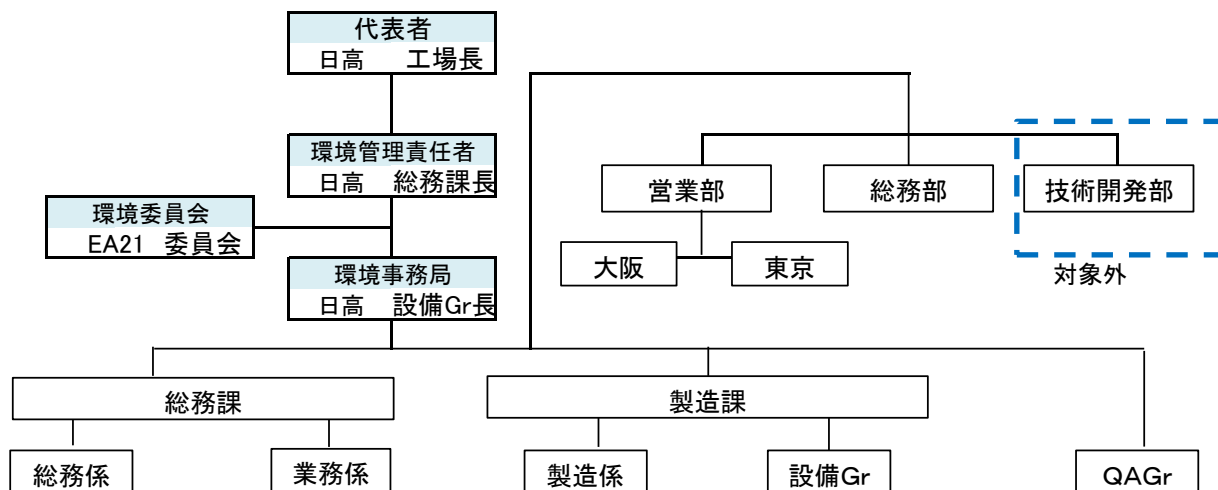
品名: FA-B1



品名: FB-B3

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2024年4月18日



区分	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、日高の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長 係長 Gr長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績(日高工場)

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
生産量(高機能)	トン	135.9	175.2	139.4
生産量(裏当て)	トン	357.4	235.0	267.6
二酸化炭素総排出量	t-CO ₂	511.0	518.3	428.8
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	6,171	5,694	4,422
産業廃棄物排出量	kg	50,501	38,410	30,150
総排水量	m ³	2,276	1,940	1,862

※二酸化炭素排出係数 0.00042 t-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

□環境経営目標及びその実績

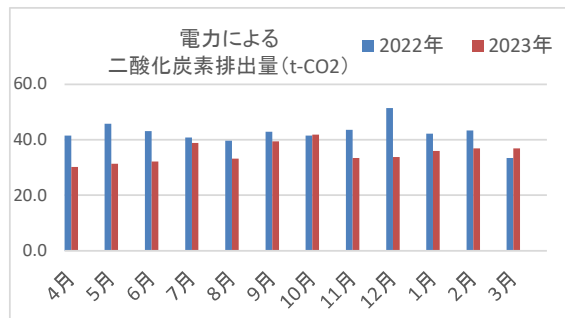
環境経営目標及びその実績			減少		増加		
項 目	年 度	2022年	2023年		評価	2024年	2025年
		(基準値)	上段: 下段:	排出量 原単位			
		(基準値)原単位	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素排出量削減	t-CO2	508.8	503.7	424.0			
	基準年度比	100%	99%	83%			
	t-CO2/t	1.24	1.23	1.04	○	1.22	1.20
	基準年度比	100%	99%	84%		98%	97%
フォークリフト・トラック・社用車による二酸化炭素排出量削減	t-CO2	0.84	0.83	0.82			
	基準年度比	100%	99%	97%			
	t-CO2/t	0.0021	0.0020	0.0020	○	0.0020	0.0020
	基準年度比	100%	99%	98%		98%	97%
LPGによる二酸化炭素排出量削減	t-CO2	3.48	3.44	3.90			
	基準年度比	100%	99%	112%			
	t-CO2/t	0.0148	0.0146	0.0146	○	0.0145	0.0143
	基準年度比	100%	99%	99%		98%	97%
灯油による二酸化炭素排出量削減	t-CO2	5.23	5.18	0.04			
	基準年度比	100%	99%	1%			
	t-CO2/t	0.0127	0.0126	0.0001	○	0.0125	0.0124
	基準年度比	100%	99%	1%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計		t-CO2	518.3	513.1	428.8	499	494
一般廃棄物の削減	kg	5,694	5,637	4,422			
	基準年度比	100%	99%	78%			
	kg/t	13.9	13.7	10.9	○	13.6	13.5
	基準年度比	100%	99%	78%		98%	97%
上記一般廃棄物排出量合計		kg	5,694	5,637	4,422	5,580	5,523
(高機能)産業廃棄物の削減	kg	32,130	31,809	29,880			
	基準年度比	100%	99%	93%			
	kg/t	183.3	181.5	214.3	×	179.7	177.8
	基準年度比	100%	99%	117%		98%	97%
(裏当て)産業廃棄物の削減	kg	4,730	4,683	1,120			
	基準年度比	100%	99%	24%			
	kg/t	20.1	19.9	4.2	○	19.7	19.5
	基準年度比	100%	99%	21%		98%	97%
(その他)産業廃棄物の削減	kg	2,430	2,406	270			
	基準年度比	100%	99%	11%			
	kg/t	5.92	5.86	0.7	○	5.81	5.75
	基準年度比	100%	99%	11%		98%	97%
上記産業廃棄物排出量合計		kg	39,290	38,897	31,270	38,504	38,111
水使用量の削減	m ³	1,940	1,921	1,862			
	基準年度比	100%	99%	96%			
	m ³ /t	4.7	4.7	4.6	○	4.6	4.6
	基準年度比	100%	99%	97%		98%	97%
上記水道水排出量合計		m ³	1,940	1,921	1,862	1,901	1,882
PRTR対象物質使用量	kg	10,689	10,582	7,732			
	基準年度比	100%	99%	72%			
	kg/t	61.0	60.4	55.5	○	59.8	59.2
	基準年度比	100%	99%	91%		98%	97%
上記PRTR排出量合計		kg	10,689	10,582	7,732	10,476	10,369
コピー用紙使用量(A4)		枚	190,000	190,000	130,000	130,000	130,000
環境に配慮した生産活動		行動目標(次項による)					

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

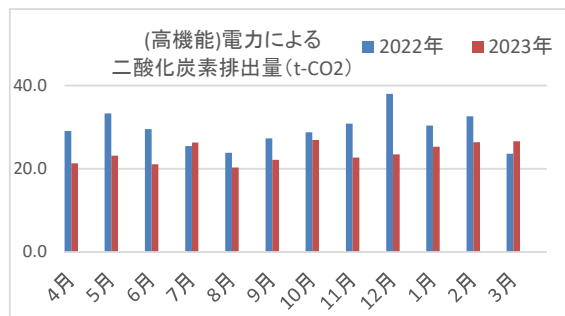
数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

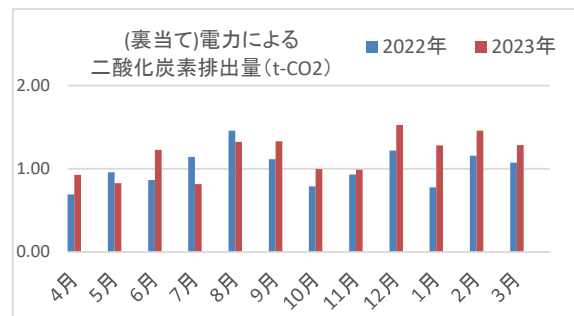
電力による二酸化炭素排出量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 年間を通じて、目標値より抑えることが出来た。主に高機能材製品の歩留向上や生産性向上の取組が実を結び、無駄なエネルギーを低減することが出来た結果と思われる。 [次年度の取組計画] 2024年度も目標値を達成できるよう活動する。
・生産性、歩留り予算の必達～向上	○	
・焼成炉、乾燥炉の時間調整によるデマンド平準化	○	
・ラインのチョコ停対策	×	
・照明のこまめな消灯	○	
・集塵機フィルタ清掃	○	



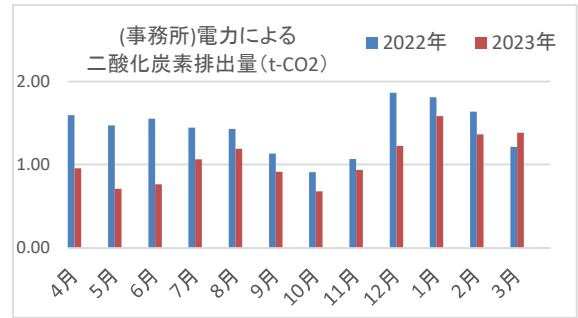
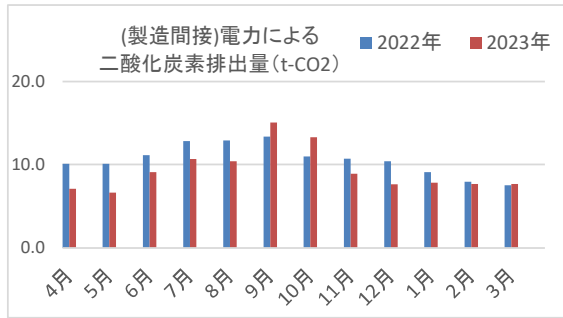
電力	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	41.5	45.8	43.0	40.8	39.6	42.9	41.5	43.5	51.4	42.1	43.3	33.4
合計	508.8	t-CO2	総生産量	410	t	原単位	1.24	t-CO2/t				
2023年	30.2	31.3	32.2	38.8	33.2	39.4	41.9	33.5	33.8	36.0	36.9	36.9
合計	424.0	t-CO2	総生産量	407	t	原単位	1.04	t-CO2/t	84%	(原単位2020年度比)		



高機能	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	29.1	33.3	29.5	25.4	23.8	27.3	28.8	30.8	37.9	30.4	32.6	23.6
合計	352.5	t-CO2	生産量	175	t	原単位	2.01	t-CO2/t				
2023年	21.3	23.1	21.1	26.3	20.3	22.1	26.9	22.6	23.4	25.3	26.4	26.6
合計	285.4	t-CO2	生産量	139	t	原単位	2.05	t-CO2/t	102%	(原単位2020年度比)		



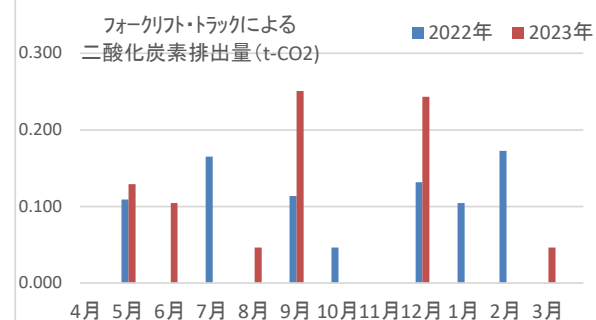
裏当て	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0.69	0.96	0.86	1.14	1.45	1.11	0.79	0.93	1.22	0.78	1.16	1.07
合計	12.2	t-CO2	生産量	235	t	原単位	0.05	t-CO2/t				
2023年	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1
合計	14.0	t-CO2	生産量	268	t	原単位	0.05	t-CO2/t	101%	(原単位2020年度比)		



間接	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	10.1	10.1	11.1	12.8	12.9	13.4	11.0	10.7	10.4	9.1	7.9	7.5
合計	127.0	t-CO2	総生産量	410	t	原単位	0.31	t-CO2/t				
2023年	7.1	6.6	9.1	10.7	10.4	15.0	13.3	8.9	7.6	7.8	7.7	7.7
合計	111.9	t-CO2	総生産量	407	t	原単位	0.27	t-CO2/t	89%	(原単位2020年度比)		

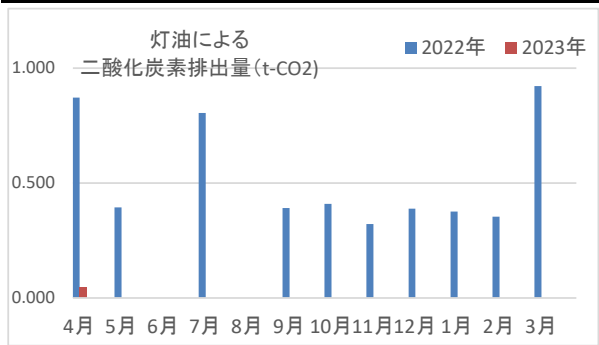
事務所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	1.59	1.47	1.55	1.44	1.43	1.13	0.91	1.07	1.86	1.81	1.64	1.21
合計	17.1	t-CO2	総生産量	410	t	原単位	0.04	t-CO2/t				
2023年	0.96	0.71	0.76	1.06	1.19	0.91	0.68	0.93	1.23	1.58	1.36	1.38
合計	12.8	t-CO2	総生産量	407	t	原単位	0.03	t-CO2/t	75%	(原単位2020年度比)		

フォークリフト・トラック・社用車による二酸化炭素排出量 達成状況					取組結果とその評価、次年度の取組計画							
数値目標					○	[取組結果とその評価] 年間を通じて目標値同等に抑えることが出来た。昨年に続いて、安全面・作業効率を考慮したレイアウト変更もおこない、効果を得ることが出来た。 [次年度の取組計画] 2024年度以降も引き続き省エネ活動をすすめる。						
・省エネ運転の教宣					○							
・効率的な荷役作業					○							



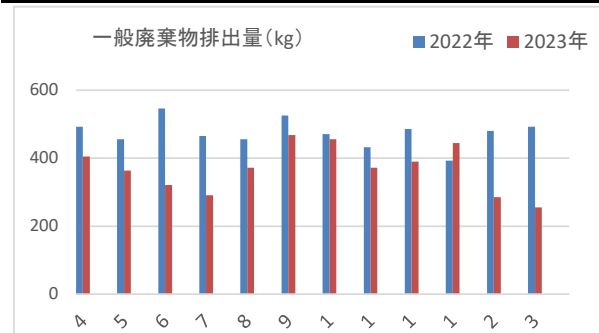
フォークリフト・トラック	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0.000	0.109	0.000	0.165	0.000	0.114	0.046	0.000	0.132	0.104	0.173	0.000
合計	0.8	t-CO2	総生産量	410	t	原単位	0.002	t-CO2/t				
2023年	0.000	0.129	0.104	0.000	0.046	0.251	0.000	0.000	0.243	0.000	0.000	0.046
合計	0.8	t-CO2	総生産量	407	t	原単位	0.002	t-CO2/t	98%	(原単位2020年度比)		

灯油による二酸化炭素排出量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 2023年度よりボイラー廃止した効果により灯油の使用量を削減することが出来た。 [次年度の取組計画] 2024年度以降は監視項目とする。
・ボイラーの廃止	○	



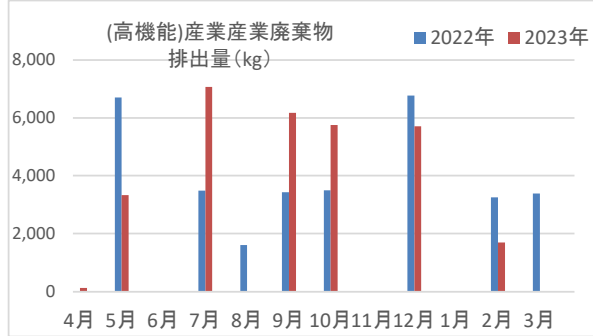
灯油	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0.872	0.393	0.000	0.804	0.000	0.391	0.408	0.321	0.388	0.376	0.354	0.921
合計	5.2	t-CO2	生産量	410	t	原単位	0.013	t-CO2/t				
2023年	0.045	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
合計	0.0	t-CO2	生産量	407	t	原単位	0.000	t-CO2/t	1%	(原単位2020年度比)		

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 年間を通じて目標値と比べて一般廃棄物量が減少した。 [次年度の取組計画] 2024年度も引き続き活動をすすめる。
・分別の徹底	○	



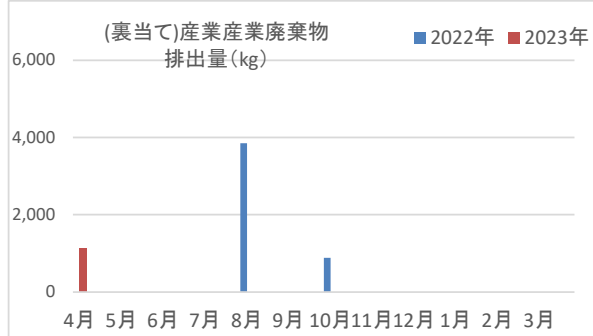
一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	492	456	546	465	456	525	471	432	486	393	480	492
合計	5,694	kg	生産量	410	t	原単位	13.9	kg/t				
2023年	405	363	321	291	372	468	456	372	390	444	285	255
合計	4,422	kg	生産量	407	t	原単位	10.9	kg/t	78%	(原単位2020年度比)		

(高機能)産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 今年度は長期不良滞留品及び水処理堆積汚泥などの産廃を多く排出したことで未達になった。 [次年度の取組計画] 2024年度も引き続き廃棄物低減活動を進める。
・作業ミスによる廃棄量の削減	×	
・素材別ボックスの設置	○	



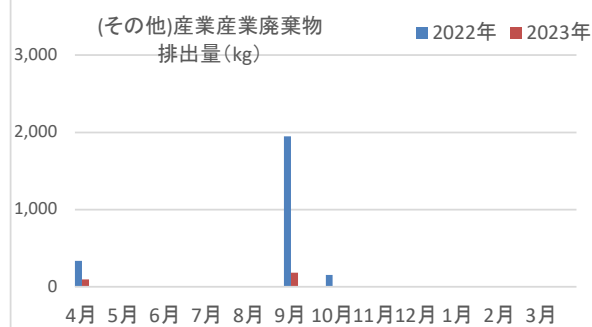
産廃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0	6,710	0	3,480	1,610	3,430	3,490	0	6,780	0	3,250	3,380
合計	32,130	kg	生産量	175	t	原単位	183.3	kg/t				
2023年	120	3,330	0	7,080	0	6,180	5,760	0	5,720	0	1,690	0
合計	29,880	kg	生産量	139	t	原単位	214.3	kg/t	117%	(原単位2020年度比)		

(裏当て)産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 作業ミスによる廃棄物の排出が多く発生した時期があったが、年間を通じて原単位を押さえることが出来た。 [次年度の取組計画] 2024年度以降は監視項目とする。
・作業ミスによる廃棄量の削減	×	
・素材別ボックスの設置	○	



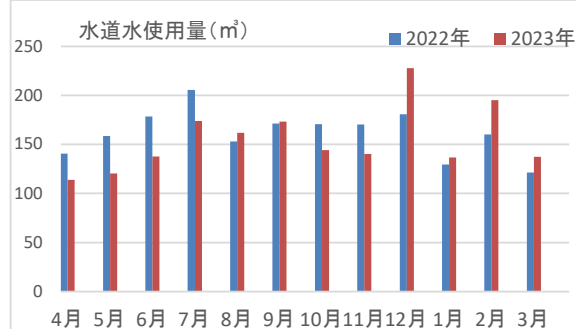
裏当て	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0	0	0	0	3,850	0	880	0	0	0	0	0
合計	4,730	kg	生産量	235	t	原単位	20.1	kg/t				
2023年	1,120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,120	kg	生産量	268	t	原単位	4.2	kg/t	21%	(原単位2020年度比)		

(その他)産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 混合廃棄物の廃棄は期末の不良滞留品廃却の際におこなわれることが大半である。 [次年度の取組計画] 2024年度以降は監視項目とする。
・混合廃棄物分別による廃棄量の削減	○	
・素材別ボックスの設置	○	
・リサイクル業者の開拓	○	



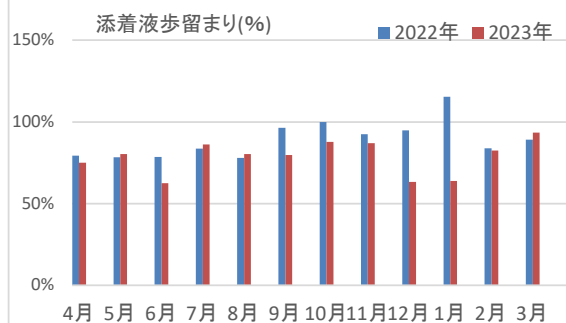
その他	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	330	0	0	0	0	1,950	150	0	0	0	0	0
合計	2,430	kg	生産量	410	t	原単位	5.9	kg/t				
2023年	90	0	0	0	0	180	0	0	0	0	0	0
合計	270	kg	生産量	407	t	原単位	0.7	kg/t	11%	(原単位2020年度比)		

水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 上期は比較的安定した水使用量に抑えることが出来た。5月にボイラーを廃止しシャワーユニットを設置した効果で低減することも出来た。 [次年度の取組計画] 12月と2月の使用量増加の原因と思われる大型炉電磁弁のごみ詰まり防止策を図り、2024年度も目標値を達成するように活動する。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水弁取り付け	○	
・自動水栓取り付け⇒全箇所導入を計画する	○	



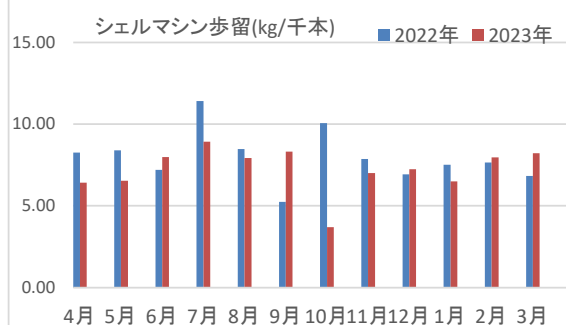
水道	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	141	159	179	206	153	171	171	170	181	129	160	121
合計	1,940	m³	生産量	410	t	原単位	4.7	m³/t				
2023年	114	120	138	174	162	173	144	140	228	137	195	137
合計	1,862	m³	生産量	407	t	原単位	4.6	m³/t	97%	(原単位2020年度比)		

添着液歩留まり向上(マンガン廃棄量削減)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 添着液の粘度や液比重等を調整するのに多くマンガンを使用した。又、調整失敗による廃棄も多く発生したことで未達となった。 [次年度の取組計画] 24年度は添着液の調整方法改善に取り組む。
・添着液飛散減少対策をする	○	
・添着量規格に入るよう水添加で調整する	×	
・添着作業方法の見直し	×	
・押出〜バリ取り作業方法の見直し	×	



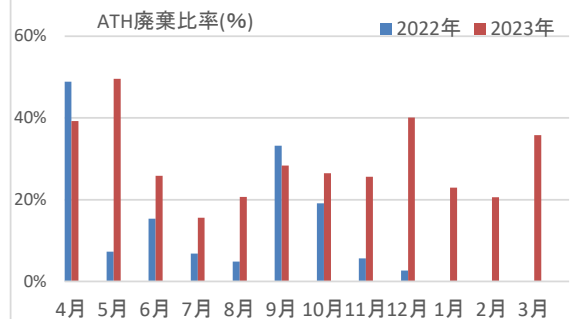
マンガン	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	79%	78%	79%	84%	78%	96%	100%	92%	95%	115%	84%	89%
2023年	75%	80%	63%	86%	80%	80%	88%	87%	63%	64%	83%	93%

シェルマシン焼成歩留まり向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 23年度より設備のトラブルシューティングの作成・活用を開始したことで調整ミスによる歩留まり低下を防止することが出来た。特に金型交換時の調整や、サンド固まり発生に対して活用している。 [次年度の取組計画] 24年度は予防保全の仕組みづくりに注力する。
・加熱炉の空気比調整	△	
・設備予防保全の実施	×	
・設定温度用温調器交換による適正化	×	
・作業手順の見直し	△	
・サンド投入部パッキン補修による投入量の均一	△	



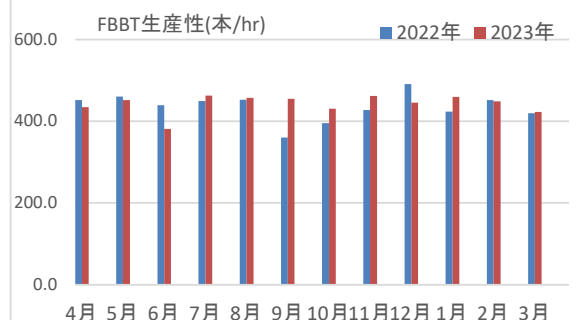
シェル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	8.27	8.39	7.20	11.41	8.47	5.25	10.05	7.87	6.93	7.51	7.64	6.82
2023年	6.42	6.53	7.98	8.93	7.93	8.31	3.70	7.00	7.23	6.49	7.97	8.23

ATH製品寸法外れ低減(歩留まり向上)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 検査治具を改善したことで検査基準が明確になり、無駄な不良を削減することが出来た。寸法外れについては寸法管理の見直しをおこない改善を図っている。 [次年度の取組計画] 寸法外れの次に多く発生しているリブ欠如については、24上QCサークル活動で改善活動を実施予定。
切断、全数検査工程で、不良詳細を確認する。	○	



ATH	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	49%	7%	15%	7%	5%	33%	19%	6%	3%	-	-	-
2023年	39%	50%	26%	16%	21%	28%	26%	26%	40%	23%	21%	36%

FBBTライン生産性向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	[取組結果とその評価] 不慣れ作業者へのOJT教育を22年度に続きおこなっている。また、シエルマシン同様に23年度より設備のトラブルシューティングの作成・活用を開始している。しかし予防保全が充分に至らず、目標値以下となった。 [次年度の取組計画] 多能工化を進めると並行して、設備保全方法の再教育を進める。
・不慣れ作業者への技術的教育の実施	○	
・設備トラブル防止の予防保全	×	



FBBT	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	451.4	460.5	439.0	449.4	452.8	360.0	395.1	427.1	490.9	423.7	451.6	419.2
2023年	434.5	451.8	380.8	462.4	456.8	454.7	430.5	461.9	445.3	459.1	448.6	422.8

□主な環境負荷の実績(大阪本社/東京)

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量				
大阪本社	t-CO2	2.6	2.7	2.6
東京営業所	t-CO2	3.1	3.0	3.1
コピー用紙使用量(A4)				
大阪本社	枚	44,499	43,815	39,108
東京営業所	枚	10,400	3,021	3,865

※二酸化炭素排出係数 0.00042 t-CO2/kWh 電力会社の調整後の係数(大阪)
0.00048 t-CO2/kWh 電力会社の調整後の係数(東京)

□環境経営目標及びその実績

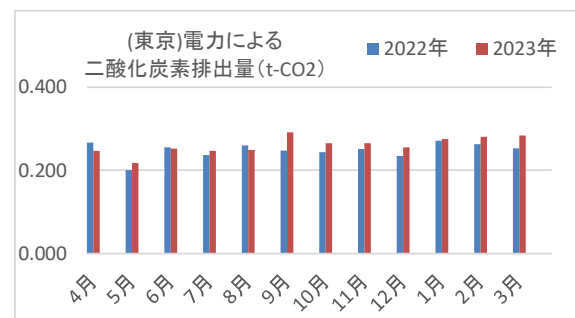
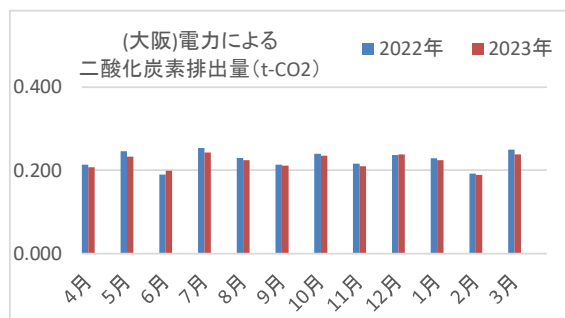
項 目		2022年		2023年		評 価	2024年	2025年
		(基準年)		上段: 排出量				
		(基準値)		(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素排出量削減(大阪)	t-CO2	2.7	2.7	2.6	○		2.7	2.6
	基準年度比	100%	99%	98%			98%	97%
電力による二酸化炭素排出量削減(東京)	t-CO2	3.0	2.9	3.1	×		2.9	2.9
	基準年度比	100%	99%	105%			98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	t-CO2	5.686	5.629	5.773			5.572	5.515
コピー用紙使用量削減(大阪)	枚	43,815	43,377	39,108	○		42,939	42,501
	基準年度比	100%	99%	89%			98%	97%
コピー用紙使用量削減(東京)	枚	3,021	2,991	3,865	×		2,961	2,930
	基準年度比	100%	99%	128%			98%	97%
上記コピー用紙使用量合計	枚	46,836	46,368	42,973			45,899	45,431

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(大阪、東京)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	[取組結果とその評価] 大阪は若干の増加、東京は目標値よりも抑えることが出来た。 [次年度の取組計画] 2023年度も節電活動を継続する。
・こまめな消灯の実施	○	
・事務所温度管理の徹底	○	
・啓蒙活動による節電意識の向上	○	



大阪	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0.214	0.246	0.189	0.253	0.229	0.213	0.240	0.216	0.237	0.229	0.192	0.250
合計	2.7	t-CO2										
2023年	0.207	0.232	0.199	0.243	0.224	0.211	0.235	0.209	0.238	0.224	0.189	0.238
合計	2.6	t-CO2	98%	(2019年度比)								
東京	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0.266	0.200	0.255	0.236	0.259	0.247	0.243	0.251	0.234	0.271	0.262	0.253
合計	3.0	t-CO2										
2023年	0.246	0.218	0.252	0.246	0.249	0.291	0.265	0.265	0.255	0.275	0.280	0.283
合計	3.1	t-CO2	105%	(2019年度比)								

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項	日高工場		大阪本社		東京営業所	
		該当	評価	該当	評価	該当	評価
廃棄物処理法	契約書、マニフェスト交付状況報告、適正処理	○	○	—	—	—	—
PCB特措法	適正処理、保管及び処分状況の報告	○	○	—	—	—	—
騒音規制法	特定施設等の届出	○	○	—	—	—	—
振動規制法	特定施設等の届出	○	○	—	—	—	—
水質汚濁法	排出基準の遵守	○	○	—	—	—	—
下水道法	排出基準の遵守	○	○	—	—	—	—
消防法(危険物)	消火設備及び危険物の管理	○	○	—	—	—	—
フロン排出抑制法	フロン類の回収・排出量の報告	○	○	—	—	—	—
PRTR法	排出量及び移動量の報告	○	○	—	—	—	—
毒物及び劇物取締法	毒物、劇物の管理	○	○	—	—	—	—
家電リサイクル法	適正処理	○	○	○	○	○	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

外部からの環境上の苦情・要望等はありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 地震の発生	
■実施日： 2023/9/8、2024/3/8	■実施場所：日高工場
■参加者： 日高工場従業員	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 工場稼働中に震度5強の地震が発生した場合を想定し、①地震発生時の初期行動②地震後の行動③避難場所での行動④消火器による消火訓練を実施しました。	
■評価： ☑手順書の評価(実践に沿った内容の訓練に見直す必要あり。次回の訓練に反映させる) 各工程ごとに配置した管理担当者を中心に班編成をおこない、地震発生時の二次災害防止のための安全確認を実施しています。今回も地震時の停電を想定し天井照明を消灯し避難をおこないました。 消火訓練では、消火器の消火訓練、消火栓放水訓練をおこないました。	
■実施状況の様子   	

緊急事態の想定： 汚水流出事故の発生	
■実施日： 2023/9/8	■実施場所：日高工場
■参加者： 係長、リーダー、サブリーダー、従業員選抜	■実施内容： 流出事故対応
■評価： ☑手順書の評価(予定通り実施・周知することが出来た。手順の見直しは無し) サブリーダー以上及び従業員選抜を対象に、工場敷地外への汚水流出防止ゲートの取り扱い訓練を実施しました。また、工場内作業場の化学物質の取り扱い、防液堤点検の訓練をおこないました。	
■実施状況の様子  	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年4月18日

【環境方針】

現方針を踏襲しつつ従業員により伝わりやすく活動が出来る内容に見直します。特に自然環境を守り地球環境保全を重視する豊岡市に所在する日高工場は「環境に配慮した生産活動」や「社会との共生・協調」が求められています。2024年度も引き続き生産活動の基本である生産性・歩留の向上を目指した活動を機軸に、重点課題に取り組んでいきます。

【目標・環境経営計画】

①年、半期、月、週、日等適切な時間単位で現状を測定、記録し設定した目標は過去の実績と比較、考察を通し改善策を立案します。

②工場では製品の品種構成や生産量の変化に的確かつ継続的に実績が評価できる様、引き続き改善を繰り返し行っています。

③本社・営業所は設定した目標の達成に向け、活動を継続していきます。

④技術開発部は、神鋼 藤沢事業所内での環境活動に参画し、環境活動を継続していきます。

(1)日高工場

・活動メンバーの見直しや環境教育を実施して、環境意識の向上や改善活動の活性化に取り組んでいきます。

・下記のこれまでの活動をレビューし継続と改善に注力していきます。

a.二酸化炭素排出量の削減

EA21委員会・省エネパトロールの継続・実施

電力使用量の監視と削減課題の抽出・対策検討実施

LPガス使用量の監視と削減策の維持・継続

b.原材料・副資材の原単位低減と、製品・仕掛品の不良廃棄量の削減

廃棄物の適正な処理と管理 原材料と副資材の廃棄量監視と削減活動

製品・仕掛品不良発生量と廃棄量の監視と削減活動

c.節水と有害化学物質の使用量削減活動

水使用量の監視と節水・使用量削減活動の継続

化学物質のリスクアセスメントの確実な実施

d.関係法令の順守、その他

遵法意識の定着

法令改正等の適時確認

e.地域社会との共存共栄

地域貢献活動(工場周辺清掃や環境ハイキング)の継続

CSR活動の推進

(2)大阪本社、東京営業所

・下記のこれまでの活動をレビューし、継続と改善に注力していきます。

a.省エネ(電力使用量の削減)

b.廃棄物(紙、ペットボトル、缶などの分別の徹底)

c.省資源(コピー用紙(A4)使用量の削減)

d.水(共同施設での水使用量の節水活動の徹底と啓発)

【環境防災訓練】

環境災害を未然に防止するため、実地訓練を検討し、防災対策の有効性向上を図っていきます。

【環境経営レポート】

環境活動がより分かりやすく公表できる様に工夫と改善を図っていきます。

【事業を取り巻く状況】

24年度は23下期並の需要で推移する見込み。

【事業と環境とのかわり】

生活環境の重要な要素である「空気」。臭気やオゾンを吸収・除去する当社フィルタ材がクリーンな空気を排出し、快適な環境づくりへ貢献しています。

【2023年度活動の評価】

活動状態を相互にチェックし、活動のスパイラルアップに繋げ、次回、EA21認証継続できるように取り組んで下さい。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

工場周辺の清掃活動:

■実施日: 1回/月

■実施場所: 工場周辺

■参加者: 日高工場従業員(環境委員会、総務係)

■実施内容:

月に一回、従業員による工場周辺の清掃をおこない、工場周辺の美化に努めています。

■実施状況の様子



地域清掃活動:

■実施日: 2回/年

■実施場所: 豊岡市内

■参加者: 日高工場従業員(有志)

■実施内容:

年に二回、従業員の有志で地域のボランティア活動に参加して、地域の美化や交流に努めています。

■実施状況の様子



工場5S活動

■実施日: 1回/月

■実施場所: 工場内

■参加者: 日高工場従業員(全員)

■実施内容:

月に1回、工場従業員全員で工場5S活動を実施しています。

工場内の整理整頓や作業環境の改善をおこなっています。廃棄物の分別に徹底的に取り組み低減に努めています。

■実施状況の様子



□編集後記

2023年度は事務所棟のボイラーを廃止しシャワーユニットを設置しました。大幅な省エネもありつつ、使い勝手も好評です。従業員の生活スタイルの変化に対応しつつも省エネにも効果があった、有効な投資となったと思われます。2024年度もよりよい作業環境づくり及び省エネにもつながる取り組みを引き続き探していきます。

担当者 池田智史